

単元名 読書に親しむ 一本は世界の扉
配当時間 1時間

- 単元の目標** (1) 二つのノンフィクションを読み、読書によって、様々な状況に生きる人々やそこで活動する人々について知ったり、読書が自分の生き方を支えてくれたりすることに気付くことができる。
- (2) 読書を通して、考えたことや気付いたことを読書ノートに書いたり、「私のおすすめ」として紹介したりすることができる。
- (3) 進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習や経験を生かして、ノンフィクションを読んで考えたことをまとめようとする。

標準的な展開例

12210220_001

【準備等】 国語指導CD, 再生機

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 読書を通して世界の人々の姿を知り、人間の生き方や社会の在り方について考える。</p> <p>○ 本教材のねらいと学習の流れを捉え、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 読書を通して世界の人々の姿を知り、人間の生き方について考えよう。</p> <p>○ 「エルサルバドルの少女ヘスース」と、「紛争地の看護師」を読み比べる。</p> <p>○ 登場する人物の生き方について自分の考えを伝え合う。</p> <p>○ 「本の世界を広げよう」(p. 191～p. 193)を読み、読んだ本や、興味をもった本について語り合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ リード文や「学習の見通しをもとう」などから本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。 ・ 教師による範読か、国語指導CDを利用してもよい。 【評】 読書によって、様々な状況に生きる人々を知る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 二つの作品の中で共感したことや疑問に感じたことなどを話し合わせる。 ・ 写真や注などを参考にしたり、新聞やニュースなどで紛争地の情報を調べたりして、困難な状況でたくましく生きる人々や世界で活動する人々について考えさせる。 【評】 読書を通して考えたことを話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 読書が自分の人生や社会との関わりをどのように支えてきたか考えさせる。 ・ これから読んでみたいジャンルや作家を挙げさせるとよい。 【評】 興味をもった本について語り合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

世界には、いまだに紛争の続く過酷な社会状況の中で、たくましく生きている人々がたくさん存在する。そうした現実に存在する人々や社会を取材しつつ、私たちに課題を突きつけたり、勇気を与えてくれたりする読み物に触れ、自分の生き方や社会の在り方を見つめ直させたい。また、そうした広く世界に取材した読み物などにも目を向けさせたい。

日本にただでは分からない世界の人々の生き方や文化、社会的な課題、歴史などを含む幅広い書物に目を向けることは、義務教育の最終段階において極めて重要である。種々のジャンルに目を向けさせ、社会的な関心も広げながら、今後の読書生活の在り方について考えさせたい。